

# 令和元年度(平成31年度) 島根県立益田養護学校 学校評価

## ①児童生徒が安心して学校生活を送ることができる安全な環境づくりの推進

評価基準に沿っての達成状況

A:達成9割以上 B:7割以上9割未満 C:5割以上7割未満 D:5割未満 E:分からない

分掌名	重点目標 (分掌・学部)	評価項目	○評価方法及び★基準	評価点	結果と課題	次年度に向けて改善策	学校関係者評価
総務	①保護者や地域、関係機関と連携しながら、PTA活動の充実・活性化を図る。	・PTAだよりやPTA会報(つくしんぼう)、学校新聞を通し、PTAの活動状況や思い等を会員に配布、掲示、閲覧などしてわかりやすく知らせる。	○PTAだよりは10回/年、PTA会報、2回/年、学校新聞3回/年発行する。保護者には配布、教職員には、閲覧と掲示又はメールで配信。★実績 ○役員会で日程や内容の相談、決定。参加人数の比較。アンケートを実施。 ★昨年度より多い参加率。肯定的意見9割以上。	A	PTAだよりは10号まで発行。会報や新聞も予定通り発行している。全保護者に配布、教職員にもメールで配布することができた。メール配信したものの、開封していない方もおられた。	PTA活動の様子や思いなどをPTAだよりや会報、新聞などで、来年度も発信していく。教職員には、メール送信は継続して行い、「見てください。」などの声かけや、大切なことはエッセンスだけでも終礼などで周知したりする。	○総括 学校評価から、きめ細やかな指導や支援を実践していることがうかがえる。B評価があるのは、まだやりたいことがある、まだまだがんばろう、という教員の思いがあるからだろうと感じる。
		・PTA活動やPTA行事について日程調整や内容を工夫し、参加しやすい状況を作るとともに、魅力的かつ円滑な運営に努める。		B	昨年度の反省や、保護者の声を元にPTA活動や行事を企画運営することができた。参加については、たいたい同じようなご家庭の参加が多くなっている。	来年度も保護者の声、ニーズを元にPTA活動や行事を企画・運営していきたい。保護者同士のつながりを深め、情報を伝え合ったり誘い合ったりできるとよい。	
子ども支援S	①児童生徒が安全かつ安心して健康に過ごせる学習環境や、緊急体制を整備する。	・緊急事態に備えた各種シミュレーション(傷病発生、捜索、不審者対応)を行い、児童生徒の安全・安心な環境づくりに努める。	○捜索・不審者対応 年1回実施 傷病発生 年2回実施 ★実績	A	捜索シミュレーションは、地図を航空写真に更新するなど、整備ができた。不審者対応は、バスの周辺という新しい設定で取り組むことができた。傷病シミュレーションも計画通り行うことができた。	実際の捜索の際にうまく機能していなかったという指摘があったので、捜索シミュレーションを夏休みに2回を行うことも検討したい。	○環境整備 生徒数の増加に伴い、教室が足りない状況がある。個別の支援の必要な児童生徒のための空間も必要であり、これ以上の生徒増に対応できないのではないか。教室の整備が急務である。
		・安全点検やヒヤリハットの取組を通して、事故を未然に防ぐための環境整備や注意の呼びかけを行う。	○安全点検 年3回実施 ○ヒヤリハットの予防対策ケース会の基準に基づき実施 ★実績	B	今年度に起こったヒヤリハットの特徴として、児童生徒の疾病や障害特性に基づいたものが多く繰り返していた(小・高)。そのため十分な実態把握の観点から学級や学部で検討する事例が多く全体に周知していないケースもあった。全体に周知することも重要だが、効果的な周知の仕方も併せて検討することが課題である。	ヒヤリハットについて、学部終礼時での即日報告の徹底と、関係者間での原因や改善策の分析を丁寧に行い学部に戻していくことを徹底する。全体へ周知することが必要な場合も適時今後も行っていく。	
情報管理S	①②児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した教育を推進する。	・児童生徒及び保護者へ情報モラル教育に関する情報を発信する。	○通信の発行 ★年2回	A	7月に「SNSに潜む危険性」という内容で発行し、2月中にもう1回発行予定。分からないという評価がいくつかあった。通信の内容は、教職員も知っていた方が良かった。	児童生徒の実態に応じた内容にしていく。教職員向けにメールで周知する。	
		・図書室の利用を促進するために、学校司書と連携し、図書の購入等を管理したり、図書便りの発行やイベント等を実施したりする。	○便たよりの発行 ★年11回	A	季節やイベント、行事などに沿った内容で各月に約1回ずつ発行した。たよりの内容を知りたいという意見があった。	教職員向けにメールで周知する。	
寄宿舎	①生徒一人一人の実態を把握した目標設定を行い、家庭と連携した支援に努める。	・家庭での生活の様子を知るためにアンケートを実施する。	○アンケート ★年3回	A	保護者へのアンケートを2回実施。結果を舎だよりで報告した。教職員にわからないという評価が見られたので、積極的な発信のしかたを検討していく。	教職員へメールで舎だよりを送る。	○防犯・防災 実際の場面を想定して、避難訓練や引き渡し訓練、各種シミュレーション等を実施している。地域の避難所となることや、夜間の災害対応なども想定した訓練も必要になってくるだろう。体力をつけることは災害時の避難という観点からも大切である。
		・計画的に食育、健康教育の学習会を設ける。	○学習会 ★每学期1回	A	保護者アンケートの結果や舎生の実態に基づいた学習会を食育、健康ともに学期に1回実施した。学習会の様子は舎だよりや家庭との連絡帳を通してお知らせした。アンケート同様わからないの評価があったので、発信のしかたを検討していく。	HPや舎だより、連絡帳を通して家庭との連携をとる。教職員へメールで舎だよりを送る。	
事務部	①学校事務における組織的なリスク管理と予算の効率的・効果的な執行に努める。	・教育活動を行う上で、施設・設備・備品・消耗品・旅費等の整備を予算の範囲で適切に行うとともに、省資源・省エネルギーに配慮し、光熱水費等の経費削減に努める。	○光熱水費の前年度との比較 ★数量ベース、金額ベース	A	既定予算の範囲で適切に予算を執行したほか、農場の害獣対策など必要な予算は新たに要求して実施した。光熱水費は前年度と同程度に収まった。	職員会等で本校の予算と事業の概要を説明し、教職員と事務職員が予算の優先順位や経費の節減について、共通理解を持つ。	
		・施設・設備の破損や不具合等について適切に対応する。	○安全点検の結果 ★迅速に対応	A	経常的に必要な修繕を実施したほか、安全面の問題が指摘された受電設備、消防警報装置、屋外遊具などが予算措置され改修を行った	経年劣化により必要な修繕のほか、生徒数の増加など状況変化に伴い必要な施設整備も要望する。可能なものは自力、低予算での修繕整備も工夫する。	
人権・同和教育	①教職員一人一人の人権意識を高める。	・教職員の人権意識を高める取り組みをする。	○ミニ研修会の実施 ★年2回 ○アンケートの実施 ★年2回	A	教職員に向けて、アンケートを2回実施した。その結果をもとに本校の人権課題を取り上げ、ミニ研修会を2回実施した。2回目のアンケートにも同じような人権課題が記入されていた。	年度初めに、昨年度のアンケート結果と、本校の人権課題解決に向けての方向性をメールで提示する。	B
		・教職員に向けて、人権・同和教育に関する情報を発信する。	○通信の発行 ★年2回	A	本校における「進路保障」の取組について通信を発行した。また、人権意識を高めるアンケートの結果から、本校における人権課題解決に向けての方向性を示すことができた。	通信を発行し、本校の人権意識を高める取組を継続していく。	

## ②児童生徒が意欲を持って取り組むことができる授業づくりの推進

実践支援S	②校内での研修や研究会の機会を充実させたり、校外での研修内容の情報共有に努めたりすることで、教職員の資質向上に努める。	・様々な研究会や研修会の情報提供や、各教職員の経験に合わせた学びの機会を設け、教職員が主体的に学ぶことができる場の提供や環境設定に努める。	○教職員、保護者向けにたよりを発行 教職員向け 学期に1~2回程度 保護者向け 学期に1回程度 ★実績	A	・外部から来る研究会や研修会の案内を知らせ、教職員の学びの機会を提供した。保護者向けに年2回、たよりを発行。教職員向けに1回発行。校内の研究会や研修会について、より主体的に学べるよう、内容や方法を検討していくことが課題である。	・今年度中にアンケートを行い、全体の意見から在り方を検討し、研修内容を充実していく。 ・悉皆研修は「全体研修」と名前を改め、内容を精選する。 ・研修報告をする機会を設定する。	○地域連携 地域資源や人材を活用した学習活動は、児童生徒の意欲向上だけでなく、参加した地域の方にも好影響を与えている。
		・専門家活用（外部講師、WINDによる機関コンサルテーション等）を計画的に実施し、関係機関と連携しながら、児童・生徒の具体的な指導、支援について学ぶ場を提供す	○計画的に実施し、学ぶ機会を提供した。全体的な学びの機会として情報を提供していくことが課題である。	A	・教員の全体的な学びの機会となるよう、専門家への相談内容を一覧にまとめ周知し、指導いただいた結果を共有の実践フォルダに保存して情報が共有できるようにする。		
小学部	②個々の教育的ニーズ、家庭のニーズに基づき教育支援計画、個別の指導計画を編成し、自分から周囲の人やものにかかわったり思いを伝えたりする支援の工夫と充実にも努める。	・個々の実態やニーズの把握のために保護者と年間3回程度、関係機関と年間2回程度の懇談を行う。また学級間を越えての情報共有を毎日、情報交換会を年間10回行う。	○実施回数 ★評価項目に準ずる	A	保護者との懇談や教員間での情報共有については、目標を達成することができた。関係機関との懇談についてはケ会議や訓練同行、受診同行などの機会に情報収集を行った。おおむねどの児童も2回以上実施できているが、ケア会議については参加できていない児童もいる。	学校以外での生活の様子やニーズの把握のために、相談支援事業者や保護者に働きかけ、どの児童もケア会議に参加できるとよい。	
		・自分から周囲の人やものにかかわったり思いを伝えたりする姿を引き出すために、地域のリソースを活用した授業実践を行う。	○各学級において地域のリソースを活用した授業実践を年間4回程度実施する。 ★実施できたか。	A	校外のリソースとしては、つろうて事業を活用したり学校周辺の農家に協力してもらったり、地域の特産物を取り入れた。校内のリソースとして、寄宿舎や他学部の教員に協力してもらい授業を行った。これらの人とかかわりの中で、自分の気持ちを伝える姿が見られた。今後、児童の実態に合わせて、校外のリソースの活用を進めていく。	人とかかわる力を伸ばすために、地域のリソースの活用は継続して行く。合わせて、相手とかかわったり思いを伝えたりする力を伸ばすために、振り返りを充実させ次の学びにつながるような授業内容を設定していく。	
中学部	②生徒一人一人の的確な実態把握とキャリア発達を踏まえた目標設定を行い、家庭や地域と連携し生徒が主体的に活動し、関わりを通して互いに育ちあえる授業実践に努める。	○地域と連携し生徒が意欲や目的をもって活動できる学習や、集団の中で人との関わりを通して互いに育ちあえる学習などを設定する。	○地域のリソースを活用した学習を学級生単で年1回、学部行事や他の教科等で年5回程度設定する。 ★実施できたか。	A	つろうて事業を中心に地域のリソースを活用し、生徒が意欲的に取り組める学習を年5回以上設定することができた。また人との関わりで苦手意識のある生徒も繰り返し取り組むことで少しずつ自分から関わろうとする姿が見られるようになってきた。	人との関わりで苦手意識をもっている生徒が増えてきているが、来年度も地域と連携し少しずつ関わりを上げながら、生徒が意欲的に取り組める学習を設定できるとよい。	
		○心身ともに健康な身体づくりのため、基礎体力、食習慣、性に関する学習など家庭と連携し、継続して取り組める学習環境を設定する。	○家庭へのアンケートや聞き取りをして、目標を設定し連携して取り組む。 ★実施できたか。	A	保護者へのアンケートをもとに「性に関する指導週間」ではグループ編成や学習内容の検討を行うことができた。前期の早い段階で保護者からの悩みや要望等を把握することができ、保護者と連携して学習を進めていくきっかけとしてはとてもよかった。今年度は「合い言葉」にあわせた内容でアンケートを行ったが、来年度の内容については今後検討する。	アンケートだけでなく、懇談や日々の連絡帳、学級通信などいろいろな方法を活用して情報共有し、保護者との連携を密にして学習を進めていけるとよい。	

A

③児童生徒の障がいの状態や発達段階に応じた社会につながるキャリア教育の推進

教務S	○全教職員が連携を密にし、児童生徒一人一人の特性や能力を生かしたキャリア教育、道徳教育を推進する。	・ますまの会を実施して全校で話し合いを行い、取り組みの共通理解・改善を図り、各学部・寄宿舎、家庭等を連携しながら教育活動の充実を図る。	○アンケートの実施(7月、12月) ★肯定的な意見9割 ○通信の発行 ★年2回	A	・各学部等、改善をしながら実践することができた。(7月、12月のアンケート結果は肯定的意見が多) ・第2回は当初の計画とは違う方法での会の実施となったが、児童生徒の様子や課題について共有したり、めざす方向を話しあったりするよい機会となった。 ・たよりは3回発行し、キャリア教育に関わる授業の見どころや学部を超えた取組等について家庭に発信できた。	・第2回のアンケートで、次年度以降のますまの取組について多数の意見をいただいた。関係各部署等と調整・検討し、次年度に向けて提案していく。
進路S	③支援機関と連携したり、必要な情報を提供したりすることで、卒業後の生活に見通しを持つことができるようにする。	・保護者からの質問や疑問について担任と連携し、情報を提供したり、必要に応じて相談会を持つたりする。	○進路だよりの発行 ★年10回	A	○進路に関わる情報や、事業所についての情報などを進路だよりに通じて発信することができている。また、各学部の進路に関わる学習の様子などを載せることで、学校の学習について知っていただける機会になっている。	○今後も進路だよりを継続して発行し、情報発信に努めたい。 ○メールなどを活用し、内容の周知をはかる。
教育相談S	③特別支援教育に関する地域のセンター的役割を果たし、益田圏域の特別支援教育の充実にも努めるとともに、本校の取組や障がいに対する理解啓発を推進する。	・ますまDE学習会(月1回程度)開催し、特別支援教育等に関する相談・情報提供を行うとともに、益田圏域の幼・保、小、中、高等学校等の連携を深める機会を確保する。	○学習会の実施 ★年8回 ○アンケートの実施★肯定的な意見9割	A	・年8回学習会を実施し、情報交換や連携を深める良い機会となった。2月20日で9回実施予定である。 ・アンケートを毎回実施し、肯定的な意見が9割以上であった。学習会の内容についてもいくつか希望があがっており、このような場の必要性が感じられた。	・アンケートをもとに、学習会の日程や内容について検討し、益田圏域のニーズに合ったものとなるように設定していくようにする。 ・他機関、他校からも協力していただき学習会となったが、旅費や時間の問題もあり、内容については今後検討が必要である。
		・「ボランティア養成講座」「作業学習ボランティア」を開設し、地域の方々と児童生徒が交流できる機会を設定し、学校や障がいに対する理解を深める取組を行う。	○参加者へのアンケートを実施「ボランティア養成講座」(4回)「作業学習ボランティア」(12月) ★肯定的な意見9割	A	・運動会では、急遽短時間での参加となったが、全体を通して本校生徒の理解を深めることができ、意欲的なボランティアの方の姿が見られた。今後も継続して行っていく。	・益田市の広報で呼びかけるだけでなく、津和野町、吉賀町の広報にもボランティアの募集を掲載し、広く圏域に呼びかけ、理解啓発の一助となるようにする。
高等部	③生徒一人一人の生活の質を高めるために、段階・過程・支援を大切にしたり取り組みをする。	・学年・学部終礼等で、生徒について情報を共有する。	○毎日実施 ★実績	B	(結果) ・学部終礼で情報の共有はできた。 (課題) ・情報発信はしたが、具体的な対応や方向性が十分出ずることができなかった。	・学部終礼等や学部会で情報共有を行う。 ・その際、対応や方向性を出していく。 ・生徒のよりよい支援を行うために、教員の双方向のやりとりをする。 ・学部の中に「生徒」フォルダを作り、ケース会記録、日々の情報及び対応等の情報を入れる。
		・生徒の「3年後に目指す姿」に向けて、教員間で支援の方向性を共有する。関係機関との連携等、スピードとタイミングを大事にしてすすめる。	○指導・支援の経過と見直し等を、記録を通して情報共有する ★実績	B	(結果) ・必要に応じて、ケース会を早い段階で行った。年間30回(課題) ・特に1年生の実態への支援について、スピードが遅かった。結果、共通理解した支援を行うのが遅れた。	・教員の気づきを大切に、日々の話し合いを大切にする。生徒に対し、発言内容やかわり方(役割分担もある)統一する。 ・ケース会は早めに行い、全体周知を図る。

B